

コーディネーター中央オリエンテーション（オンライン会議）報告

日時 令和7年7月24日（木）14：00～16：00

会議の流れおよび議事等

オンラインの会議（Zoom）の説明 佐々木

1 挨拶 真砂会長

2 「全日本剣道連盟の現状と課題等」について 中谷副会長兼専務理事

※資料1の説明

- ・財務（事業収支）：「世界大会応援クラブ会員募集」 チラシ
 - ・コンプライアンスの徹底
なぜ重要か 社会が敬遠、人気の下落、競技者の誇りに傷、競技人口減他
→全剣連は決意をもって不祥事防止に取り組む
 - ・剣道人口の減少（高体連資料より）
→剣道人口増プロジェクトチーム（全剣連挙げて）
剣道未来プロジェクト これから「鬼滅の刃、スマイル剣道」
 - ・なくならない不祥事
→実名告発、申告事案 増 令和6年度43件 令和7年度すでに20数件
- ※ハラスメント防止リーフレット（普及委員会）
- ※資料1-1 公益財団法人全日本剣道連盟における倫理に関するガイドライン

P1～P7

3 スポーツ庁委託事業 令和6年度「令和の日本型学校体育構築支援事業③多様な武道等指導充実及び支援体制の強化」の成果報告

および令和7年度の実施概要と依頼について 軽米

※資料2の説明

- ・令和6年度事業行程図 説明
- ・令和6年7月23日（火）コーディネーター中央オリエンテーション（Zoom）
- ・9月7日（土）・8日（日）講師中央オリエンテーション（勝浦武道研修センター）
- ・公開授業の実施、全国3県
（島根県大田市立第2中学校 令和6年12月12日、東京都練馬区立光が丘第2中学校 令和7年1月29日、群馬県藤岡市立鬼石中学校 令和7年1月31日）

・アンケート調査の結果

※中学校現場への授業協力者活用を進めていくことが今後の大きな課題（受講者対象）

※授業協力者の先生がいたほうがいい 肯定的回答割合 高（生徒対象）

自由記述より生徒の期待に応えられるよう、授業改善が求められる

自由記述のワードクラウド単語出現頻度 「礼儀」「楽しい」「できる」・・

※管理職・保健体育科教員 「高い評価」 「継続して活用したい」

生徒の多くが「剣道」を初めて中学校期に学ぶため、「主体的に思考・判断・表現」しながら学べるように、教員・授業協力者が協力し合うことや、授業協力者研鑽・工夫を積み重ねて支援することが求められる。

※文部科学省・スポーツ庁委託事業の実績

剣道授業実施率向上（37、8％）、授業協力者活用率の向上（23、4％）

・スポーツ庁委託事業 令和7年度「令和の日本型学校体育構築支援事業③多様な武道等指導充実及び支援体制の強化」 確認

※授業協力者指導充実・資質向上講習会実施について 協力依頼①

1) 2) 安全について 5) 授業協力者有資格者および新規候補者、名簿の見直し
地域移行 ⇒ 地域展開 4月事務局長会議でも依頼

※アンケート調査 協力依頼②

全国9ブロック対象 都道府県4校公開授業の実施依頼

※コーディネーターへの 協力依頼③

持続可能な支援体制 「武道必修化支援連絡協議会（仮称）」

4 剣道授業の安全指導・衛生管理について 百鬼・軽米

※資料4「剣道授業の安全指導・衛生管理」 資料のとおり説明

竹刀の安全・保守管理 安価？

防止策：「稽古前と稽古中の安全点検」

“安全・保守管理が事故を未然に防ぐ”

※面マスクの着用について

※WBGT【湿球黒球温度】 別紙資料

※授業前、授業中、授業後の衛生面、共有事項 別紙資料

5 3県代表 公開授業実施報告について（島根県・東京都・群馬県） 軽米 資料5

※各担当者より報告説明

資料 5-1 島根県の報告

- 1) 礼法所作等、武道の授業の大切さ、思いやり
- 2) 授業教諭、授業協力者の阿吽の呼吸
- 3) 判定試合等、評価（勝敗のみ）だけでなく「言葉がけ」

資料 5-2 東京都の報告

- 1) 授業協力者感想 「剣道を続けてきて多くの人と出会い、豊かな人生を送れている。何か熱中するものを見つけてほしい」
- 2) 生徒感想 「構えが難しかった。竹刀の重さは感じなかった。」

資料 5-3 群馬県の報告

- 1) 授業協力者感想 「大きな声が出てくると、徐々に笑顔が増してくる。笑顔で取り組む姿勢態度は、自然とお互いが教えあい、学びあう関係性を作ようになる。剣道は本当に不思議な力と魅力に富んだスポーツです」
- 2) コーディネーター感想 剣道「明るく」「楽しく」「夢中に」、「人づくりの道」・・・「剣道の教育的価値」の高さ、深さ、広さ

6 中学校部活動の地域移行→地域展開について

資料 6

○地域移行に関する国の動向について 概要①

※名称変更「地域移行」⇒「地域展開」

○部活動地域展開の方向性 概要②

※改革の進め方

- ・休日については時期改革期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す。
- ・平日については各種課題を解決しつつ更なる改革を推進。まずは国において対応策の検証等、地方自治体において地域の実情に応じた地理組を進める。

※次期改革期間

- ・「改革実行期間」（前期：令和 8～10 年度 ⇒中間評価⇒後期：令和 11～13 年度）

※費用負担の在り方等

- ・受益者、公的負担のバランスの検討、受益者負担の水準については国において金額の目安等を示すことを検討。

○部活動の展開等に関する課題の整理とスケジュール 別紙資料

○学校部活動と地域連携による地域活動の違い対比表 資料 6-3

○地域移行（展開）事例

①会津若松市における取組について

中学校休日部活動「地域移行」

→ 福島県剣道連盟若松支部「剣道部週末合同練習会」

②兵庫県明石市における取組について

モデル実施・概要

① 集合型合同練習 ② 派遣型合同練習

来年度 市内剣道部設置校 10 校

- 1 派遣型：2校から5校 【月3回から4回実施（開始は4月）】

- 2 合同型：2校合同を1校 【 〃 】

- ### 3 集合型：全中学校

【月1回(開始は9月 年7回)全体集合2回 東部 西部エリア別5回】

7 3つのアンケート調査依頼 (ICT:Google form 回答) について 資料 5-4

佐々木

8 質疑応答 特になし 軽米

9 閉会の挨拶 真砂会長

以上

令和7年7月30日

文責 飛知和 利文